

令和2年度第2回大分市行政評価・行政改革推進委員会

1. 日時 令和2年10月26日(月) 13:30~15:30
2. 場所 ホテル日航大分 オアシスタワー 3階 紅梅の間
3. 出席者

○大分市評価・行政改革推進委員会委員

委員長	安部 茂	委員	池邊 泰治
副委員長	渡邊 博子	委員	植松 康成
委員	石井 公二郎	委員	丹羽 和美
委員	長崎 浩介	委員	谷川 真奈美
委員	矢野 正一	委員	荒金 一義
委員	山本 勝紀	委員	江口 公二
		委員	井上 仁美

(欠席2名)

○出席職員

大分市長	佐藤 樹一郎	農林水産部長	加藤 典臣
大分副市長	久渡 晃	土木建築次長	高瀬 和夫
大分副市長	木原 正智	都市計画部長	姫野 正浩
教育長	三浦 享二	教育部長	佐藤 雅昭
総務部長	佐藤 耕三	教育部教育監	高橋 芳江
企画部長	伊藤 英樹	企画部審議監	広瀬 正具
財務部長	西田 充男	企画部審議監	三好 正昭
市民部長	末松 広之	企画部次長	高橋 賢次
福祉保健部長	斉藤 修造	企画部次長兼企画課長	小野 晃正
子どもすこやか部審議監	池田 武文		
環境部長	大石 晃		
商工労働観光部長	永松 薫		

○事務局

行政改革推進室室長	山口 大介
行政改革推進室主査	石川 ゆかり
行政改革推進室主任	山香 仁
行政改革推進室主任	姫嶋 壮

4. 次第 (1) 開会あいさつ
 (2) 開会
 大分市の行政評価について
 (3) 議題
 ①指定管理者制度導入施設評価について
 ②事務事業評価（地方創生関連）について
 (4) 閉会

<p>企画部次長</p>	<p>皆様方におかれましては、大変お忙しい中、大分市行政評価・行政改革推進委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は「指定管理者制度導入施設評価」及び「地方創生関連の事務事業評価」について御審議をいただくこととなっています。</p> <p>なお、終了予定時刻は15時30分の予定でございます。よろしくお願い申し上げます。</p> <p>ここで皆さまにお願いがございます。携帯電話をお持ちの方は、マナーモードにするか、電源を切っていただきますようご協力をお願いいたします。</p> <p>まず、はじめに佐藤市長より「令和2年度大分市行政評価」について、委員会の意見を求める依頼書を安部委員長にお渡しいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>「令和2年度大分市行政評価について」</p> <p>本市の行政評価制度では、大分市総合計画に定める政策・施策について行う「政策・施策評価」、施策を実現するための具体的な活動である事務事業について行う「事務事業評価」、指定管理者制度を導入している施設における効果を検証するために行う「指定管理者制度導入施設評価」を実施することとしております。</p> <p>本年度の行政評価では、「指定管理者制度導入施設評価」におきまして、各部局による一次評価及び内部検討チームによる整理・集約を経て、総合経営会議において二次評価を行い取りまとめた内部評価の結果につきまして、貴委員会に意見を求めます。</p> <p>なお、貴委員会の意見を聴いた後には、その評価結果を可能な</p>

<p>企画部次長</p>	<p>限り来年度以降の予算編成等に反映するとともに、その概要を市民に公表する予定であります。</p> <p>(文書を安部委員長に手渡し)</p> <p>それではここで、佐藤樹一郎市長より、御挨拶を申し上げます。</p> <p>—市長挨拶—</p> <p>本日は大変お忙しい中、令和2年度大分市行政評価・行政改革推進委員会に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>また、委員の先生方には常日頃から市政の推進に御支援・御協力、御鞭撻をいただいておりますことに対し、改めて感謝を申し上げます。</p> <p>7月13日に開催しました第1回の委員会では「大分市行政改革推進プラン 2018」の進捗状況、今後の取組について御審議いただきました。本日は「指定管理者制度導入施設評価」と大分市の総合戦略に関わる地方創生の取組につきまして御審議をいただきます。</p> <p>今、コロナ禍にありまして大分県での感染者数は159名であり、ここ1~2週間は落ち着いた感じではありますが、全国を見ますと東京等の大都市で感染者数が増加しておりますし、世界を見ますと3~4月頃より増加しているところもあります。</p> <p>そのような中、これからインフルエンザの季節を迎えますので、県としっかり連携しながら取組をしていきたいと思っております。同時に国の施策でもGo Toキャンペーン等の取組も開始されています。大分市でも10月からOITAサイクルフェスを始めとしてイベントを再開しております。コロナ対策に万全を期しながら、片方でにぎわいを取り戻す取組を進めています。これから半年、1年あるいはまだ2年位かかるかもしれませんが、感染症対策とにぎわいの創出を両立させる取組を継続してまいります。</p> <p>また、本日は、もう少し中長期的な5年、10年後の将来の大分市を作っていく上で大変重要な課題であります少子高齢化に係る議題につきましても御審議いただきます。</p> <p>委員の皆様には忌憚のない御意見、御提言をいただきますようお願いを申し上げます。御挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
--------------	---

<p>企画部次長</p>	<p>本日は中島委員及び佐藤委員が所用により欠席されておりますので、御報告いたします。</p> <p>それでは、ただ今から、令和2年度第2回大分市行政評価・行政改革推進委員会を開会いたします。本委員会設置要綱の規定に基づき、委員長が議長を務めることとなっておりますので、安部委員長に議長をお願いしたいと思います。</p> <p>まず、御挨拶を頂戴し、引き続き議事進行をお願いいたします。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>こんにちは。委員長の安部でございます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、御多忙のところ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の第2回委員会は、市が行う行政評価における外部評価の場ということで、委員の皆様には、積極的に御意見を交わしていただく中で、市民の視点に立った評価として当委員会の考え方をまとめていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>ここで、会議の開催に当たりまして、まず委員の皆様を確認させていただきます。会議の公開についてでございますが、大分市では審議会等の会議は公開に努めることとしております。本日の会議は特に非公開とするべき内容はありませんので公開といたしたいですがよろしいでしょうか。</p> <p>(委員の異議がないことを確認)</p>
<p>安部委員長</p>	<p>また、併せて本日の会議の議事録については、市のホームページ等で公開するというのでよろしいでしょうか。</p> <p>(委員の異議がないことを確認)</p> <p>それでは、会議及び議事録については公開といたしたいと思いますのでよろしく申し上げます。</p> <p>それではまず、議事に先立ちまして、事務局より大分市の行政評価制度の概要について説明があるとのことですので、お願いします。</p>

<p>行政改革推進室長</p>	<p>(行政評価制度の概要について説明：資料1を使用)</p> <p>大分市企画課行政改革推進室室長の山口でございます。</p> <p>はじめに、大分市の行政評価制度の説明をさせていただきます。お手元にお配りしております、右肩に資料1と記載されたA4縦の資料をご覧ください。</p> <p>大分市では、効率的かつ効果的な行政運営を図るために行政評価を実施しており、その大きな柱としては、資料の①「大分市総合計画の政策体系に基づく評価」と②「指定管理者制度導入施設評価」がございます。</p> <p>①についてでございますが、事前に委員の皆様方に御説明にお伺いさせていただいた際にお渡しいたしました、本市の最上位の計画であります「大分市総合計画・おおいた創造ビジョン2024」では、市の基本方針である「政策」と、これを達成するための具体的な方策としての「施策」を体系的に定めております。本市ではこれに基づき、毎年度編成する予算の中で、施策を実現するための具体的な活動として約1,500の事務事業を実施しております。これらの「事務事業」を個別に評価し、体系的に整理しながら、本市の行政運営の根幹となる「政策・施策」の評価を行います。</p> <p>次に②についてでございますが、事務事業の中には、市民福祉を増進する目的を持ってその利用に供するために設ける「公の施設」を運営・管理していくものがございます。これに当たっては、財源、人的資源を有効に活用しながら質の高い行政サービスを提供し、市民福祉のさらなる維持向上を図るため、民間活力を活用することができるという「指定管理者制度」がございます。この指定管理者制度を昨年度までに導入している施設が現在本市では15施設ございますが、その管理運営状況についても毎年度評価を行っています。</p> <p>実施フローといたしましては、資料真ん中の図にございますように、各担当課における内部の一次評価に始まり、企画課での整理・集約を経て、市長をトップとする総合経営会議の場で決定した内部の評価結果（二次評価）について、この大分市行政評価・行政改革推進委員会の場で、外部評価として、公開で市民の視点から、主に政策・施策評価と指定管理者制度導入施設評価について皆様からの御意見をいただきたいと考えております。</p>
-----------------	--

安部委員長	<p>なお、今年度につきましては、新たに策定した総合計画の第2次基本計画の初年度となっておりますことから、政策・施策評価について御意見をお伺いするのは来年度以降となります。</p> <p>本日は、指定管理者制度導入施設評価に係る御意見をお伺いすることになりますが、図の左側の青枠の部分をご覧ください。大分市行政評価・行政改革推進委員会には、指定管理者評価部会を設けております。後ほど説明を加えさせていただきますが、本日の会議に先立って4名の部会員の方に、施設の管理運営状況に係る市のモニタリング資料の確認、現地視察、所管課へのヒアリング、市の内部評価結果の検証を通じて事前に部会の意見をまとめていただいております。本市としても今年度からの新たな取組になりますが、本日の外部評価ではこの評価部会からの意見報告をいただいた後に、委員の皆様で御意見を交換いただきたいと考えております。</p> <p>最後に、資料の一番下ですが、本日の委員会での御意見は、会議後に事務局を通じて委員会の報告書としてまとめ、改めて市長が受け取らせていただき、市議会への送付やホームページでの公表も行っていくよう考えております。</p> <p>また、本日は、この制度の枠組みとは別になりますが、少子高齢化や地方の人口減少と東京一極集中に歯止めをかけるという「まち・ひと・しごと創生法」の基本理念に則って行っている地方創生関連事業について、外部の方の委員の意見を伺わなければならないとされておりますことから、本市で実施している5事業について、外部評価を担っていただいている本委員会の皆様に御意見をお伺いさせていただくこととしております。</p> <p>説明は以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>只今の事務局の説明にもありましたように、本日の議事内容を当委員会の意見としてまとめ、来月市長へ改めて報告させていただきます。</p> <p>始めにも申し上げましたが、本日は皆様の御意見を基に委員会の意見をどうまとめていくかという形で会を進行したいと存じます。</p> <p>それでは、議事に移りたいと思います。</p>
-------	--

<p>行政改革推進室</p>	<p>指定管理者制度導入施設評価について事務局及び指定管理者評価部会の石井部会長から、説明をお願いします。</p> <p>まず、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(評価の概要と全体結果を報告：資料2を使用)</p> <p>指定管理者制度導入施設評価の概要について、御説明いたします。右肩に資料2と記載されたA4横の資料をご覧ください。</p> <p>当市の指定管理者制度導入施設の評価につきましては、以前より、外部行政評価委員会にて「委員会に諮る前に専門的な知見からの評価を実施することが望ましい」との御意見をいただいていた。そこで本年度より、外部の委員によって構成される「指定管理者評価部会」を設置し、市の内部評価結果に対する御意見をいただく体制としています。</p> <p>7月末に設置しました評価部会には、表に記載の4名の方に御参加いただいておりますが、このうち竹田先生と山口先生は評価部会にのみ、御参加いただいています。</p> <p>本年度の部会の活動といたしましては、8月に一部の施設につきまして、管理運営状況を視察していただき、9月には全ての施設を対象に所管する課の担当者へヒアリングも行っていただきました。</p> <p>その後、市の内部評価結果や、現地視察、ヒアリングの結果などを基に部会としての意見をまとめていただきましたので、本日、石井部会長より報告をしていただきます。</p> <p>「2. 評価手法」の説明に入りますが、本市では内部評価において現在の指定期間の経過年数に応じて「6段階評価」と「所見評価」の2種類の評価方法を採用しています。</p> <p>6段階評価は指定期間が最終年度の施設と指定期間の中間年に当たる施設を対象に行います。</p> <p>評価においては、「1. 有効性の向上」「2. 効率性の向上」「3. 適正な管理運営に関する取組」の3つの視点を設けており、コスト削減だけでなく、サービスの質的向上も含めた様々な視点から、その実績に応じた採点を行います。その後、得点の合計からSからEまでのランクをつけ、総合的な評価としております。</p> <p>6段階評価を実施しない年度に当たって施設につきましては、採点を行わない「所見評価」を行っていますが、評価の視点は6段階評価と同じです。これらの施設につきましても来年度以降、順次、6段階</p>
----------------	---

<p>安部委員長</p>	<p>評価を行う予定です。</p> <p>資料の2枚目をめくっていただきますと、施設の一覧表を掲載していますが、本年度6段階評価を行いましたのは「アートプラザ、ホルトホール大分、平和市民公園能楽堂、高崎山自然動物園、市営温水プール」の5施設であり、結果は施設名称の右側に記載のとおり、アートプラザがB評価「やや優れている」、その他の4施設はC評価「適正」でした。これら5つの施設は評価部会の皆さまに現地を確認していただき、その結果を御意見にも反映していただいています。</p> <p>各施設の内部評価結果の説明につきましては、審議時間が限られていますので、割愛させていただきますが、A3の「資料3 指定管理者制度導入施設評価」を基に、この後、御意見を賜りたいと存じます。</p> <p>指定管理者制度導入施設評価の概要に関する説明は以上です。</p>
<p>石井部会長</p>	<p>続きまして、指定管理者評部会からの報告をお願いしますが、施設の数が15件ありますので、性質別に4つのグループに分けて報告をしていただきます。1グループ当たりの所要時間を概ね15分程度とさせていただきます、グループごとに委員の皆様の御意見を伺いたいと思います。</p> <p>では、石井部会長お願いします。</p> <p>まず、指定管理者制度導入施設に係る評価全般についての意見を述べさせていただきます。資料3の表紙に記載しております「施設全体に係る意見」をご覧ください。</p> <p>アンケートのサンプル数が少ない施設が見受けられるので、より多くのサンプル数を得られて施設利用者の実態を反映できるような手法に改善していただきたい。</p> <p>類似した性質の施設もあることから、それぞれの指定管理の事業者同士の連携、情報共有を図り、より市民サービスの向上につながる取組につなげてほしい。</p> <p>最後ですが、指定管理者が施設を最大限に活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているかを評価するに当たっては、市が施設の活用方針及び指定管理者に期待する水準を明確にすることが必要である。その上で、指定管理者の事業実績が市の求める水準に到達したかどうかという視点で評価を行い、今後の施設運営に対する指導へとつなげることが必要であると評価をさせていただきました。</p>

<p>安部委員長</p>	<p>次に個別の施設の評価結果に対する部会の意見を報告させていただきます。</p> <p>資料3 A3の各施設評価シートをご覧ください。</p> <p>アートプラザの評価ですが、資料の右下に指定管理者評価部会の意見を記載させていただいています。</p> <p>(以下、アートプラザ、ホルトホール大分、コンパルホール、平和市民公園能楽堂について、資料3に施設ごとに記載されている「指定管理者評価部会の意見」に沿って報告)</p> <p>それでは、ただ今説明のありました施設の評価結果に対して、御意見等はございませんか。</p>
<p>江口委員</p>	<p>アートプラザについて、一部の施設(磯崎新建築展示室を含めて)が市の直営となっているとのことですが、その理由を教えてください。</p> <p>また、磯崎新建築展示室は展示の方法が分かりにくいので、改善をお願いしたい。</p> <p>模型もガラスケースに入っていない状態で展示されているため、少し汚れているように思います。</p> <p>コンパルホールにある大分市民図書館(分館)の機能をホルトホールの図書館と統合してはどうか。将来的な問題とは思いますが、人的・機能的に統一ができると思う。2つの図書館は距離も近い上、ホルトホールは建物が新しく、充実しているが、さらに充実できると思う。(コンパルホールは)築35年経過しており、古びてきていると感じます。</p>
<p>美術振興課</p>	<p>アートプラザの磯崎新建築展示室が直営となっている理由ですが、指定管理者制度を導入するに当たりまして、建築に係る展示には専門的な知識が必要であることから、その知識の蓄積をしたうえで展示が重要であると考えました。その(知識の蓄積を)指定管理者が実施する業務として定めたとしても、民間の事業者には実施が困難であろうと、制度導入時に判断しました。その結果、3階の建築展示室につきましては、市の直営という形で残してきたという経緯がございます。</p> <p>また、展示(の内容)並びに展示物の状態につきましては、いただ</p>

<p>山本委員</p>	<p>きました御意見を踏まえまして、今後改善に努めて参りたいと思います。</p> <p>アートプラザの評価調書の「2 効率性の向上等に関する取組」の（1）経費の低減等の項目において、「最低賃金の引上げや消費税率改正に伴う実質値上げにかかる費用増加分を指定管理料に反映することなく、自助努力にて解決」という点を評価しています。この施設は利用料金制の施設であり、条例で料金が定められていると思いますが、最低賃金や消費税の増税に関しましては、条例を改正し、料金を改定しなければ、指定管理者が自腹を切る形になってしまうと思うのですが、その点についての見解をお聞かせ下さい。</p> <p>また、全体的な評価の中で、アンケートのサンプル数が少ないと指摘がされていますが、大分県の指定管理者制度を導入している施設に係る評価におきましても同様の指摘を受けています。</p> <p>（サンプル数増加のため）QRコード等を活用し、スマートフォンでアンケートに回答できる仕組みなどの提案をいただき、実施した施設においては、アンケートの回答数が増加したという成果も出ています。</p> <p>指定管理者同士の情報共有という話もありましたが、大分県では、昨年度と一昨年度に指定管理者が一同に会しましてアンケート調査の見直し等の研修会を開催しております。県と市で一緒になって、アンケートの内容等について改善していただければ良いと思います。</p>
<p>美術振興課</p>	<p>昨年度の消費税率改正に伴う施設利用料につきましては、条例改正を行い、増税分を指定管理者が利用料金として徴収し、自らの収入とすることができています。</p> <p>評価に記載しております内容は、利用料金の部分ではなく、施設を運営するにあたって指定管理者が支払う必要がある物品購入費などの経費を自助努力によって削減されているということです。</p> <p>実は、現在の指定管理者を選定する際に、5ヵ年の収支計画を審議対象としました。その際に人件費等や消費増税分が（事業者が提案した）指定管理料に反映されていなかったので、選定会議でも議論されました。提案者であった現在の指定管理者から、本社と共にコスト削減につとめて、できる限り、最低賃金の引上げや消費税の増税分に係る経費の増加については事業者自身で対応していくという提案がありまして、その提案に基づいて現在の指定管理者を選定しており</p>

<p>渡邊副委員長</p>	<p>ます。</p> <p>先ほど、石井部会長より報告いただきました、指定管理者評価部会からの御意見に対する、市の回答はどのような形で報告をいただけるのでしょうか。ターゲットのことですとか苦情に対する対応等、かなり重要な事項が記載されていると思います。</p>
<p>企画部長</p>	<p>今回、議論していただいておりますのは、委員会から市の方に提言をいただく御意見の調整ということになります。</p> <p>石井部会長から御報告のあった内容も、委員会に諮った上で、委員会としての御意見をいただきたいと思います。</p> <p>私どもはその御意見をいただきまして、これから様々な点で改善できるところを変えていき、来年のこの（行政評価・行政改革推進委員会の）場で、結果を報告させていただくという流れを予定しています。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>基本的には部会から報告いただいた御意見を基に、より深く突っ込んだような御意見を皆様からいただき、委員会としての意見をまとめたいと思います。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>昨年度までの外部行政評価委員会にて、委員を担いました。アートプラザの評価結果に対して、文教施設においては、入場者数だけでなくもっと違った視点での評価を行った方が良いのではないかという点を申し上げていましたが、やっと B 評価になってうれしく存じます。</p> <p>市民の作品の発表の場として、ギャラリーの貸し出しは、市民文化の向上という視点でも力を発揮していると考えます。</p> <p>キュレーター達の質も非常に高く、一般市民の方と本当に良い環境を作り上げていると感じますし、その点も評価したいと思います。</p> <p>能楽堂についても、能楽公演だけの運営は厳しいようですが、違った視点では、バイオリンやチェロといった弦楽器のコンサート等も実施されており、文化の拠点として活用されています。</p> <p>アートプラザと同様に入場者数といった数値的な目標だけでなく、文教施設としての評価の指標を加えていただくと、他市にはない取組をされている 2 施設に対して、市民文化の向上に資するという設置目的に合致し、良い評価が行えると思います。</p>

<p>荒金委員</p>	<p>各施設の評価結果を見ると数値的な点は実績が挙がっていると言えると思います。</p> <p>基本的な料金体系についてお伺いしたいのですが、各施設やホールの料金をどのように設定されているのでしょうか。</p> <p>また、利用料金に関連しまして、各施設を利用した方にアンケートを実施しているとのことですが、料金体系について高い、安い、適切といった御意見が挙がっていましたらお聞かせ下さい。</p>
<p>企画部長</p>	<p>料金体系の考え方でございますが、市が行う事業では共通ですが、その施設の整備に掛かった経費、維持管理に係る経費を勘案した結果、及び他都市の施設や民間の施設における料金設定の考え方を考慮し、総合的に判断した結果、料金を設定しています。</p> <p>アンケートについてですが、料金が高い・安いという設問を設けて積極的に意見をお伺いするといったことはしておりません。自由記載欄にて御意見をいただくという形になるかと思えます。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>それでは次のテーマに移りたいと思います。</p> <p>では石井部会長、次の施設に関する部会意見の報告をお願いします。</p>
<p>石井部会長</p>	<p>では、5ページの高崎山自然動物園からです。(以下、順に海部古墳資料館、関崎海星館、情報学習センターについて指定管理者評価部会の意見を報告)</p>
<p>安部委員長</p>	<p>それでは、ただ今説明のありました施設の評価結果に対して、御意見等はございませんか。</p>
<p>渡邊副委員長</p>	<p>高崎山自然動物園ですが、非常に歴史のある、大分市ならではの施設で、部会の御意見にもありましたとおり、他県にも類のない施設だと思います。子どもの頃に何回か行き、大人になってまた訪れると、また違った気づきがある施設だと思います。</p> <p>入園者数が減少しているということですが、施設における滞在時間は伸びているのでしょうか。</p>

<p>観光課</p>	<p>グッズの販売実績が大きく伸びているという記載もありますが、施設の質が向上しているとも言えるかと思います。</p> <p>職員の方のパフォーマンスであったり、サービスというものは非常に素晴らしいと思いますので、その辺りをもっと深めていただきたいと思います。</p> <p>おさる館に関しては、市民や若者たちから活用のアイデアを募集してみてもどうでしょうか。以前、訪れた際も非常に閑散としているような状況でしたので。</p> <p>一方、気になる点といたしましては、評価項目3（1）施設の管理運営の実施状況の箇所で、臨時職員が早期離職してしまうという記載があります。働く環境がどのような状況なのかをお聞きしたいです。</p> <p>海部古墳資料館や関崎海星館を含めて、大分市にこのような良い施設があるので、交通システムを発展させて、皆がすぐに行けるような工夫・アイデアがあると良いと思います。と申しますのも、市内にいる私でさえも知らない施設がありますので、まず大分市民が行けるところ、観光客も一緒に行けるような仕組みが出来上がっていけば良いと思います。</p> <p>高崎山の職員のパフォーマンスとして、1頭ごとの名前と顔を覚えて、楽しい話を交えながら、来園者に解説をしていただく工夫を続けていますが、滞在時間が伸びたかどうかについての詳細な資料は、本日は持ち合わせておりません。</p> <p>また、おさる館の活用方針について若者からアイデアを募集するという点につきましては、大変重要なことだと思いますので工夫していきたいです。</p> <p>臨時職員の早期離職の件ですが猿が（山の周囲の）柵を越えることがございまして、その場合には職員が早朝から猿を山に追い返すといったような勤務もございまして。山の中のことでございまして、体力的にきついということもあり、退職される職員の方がいらっしゃるという状況です。</p> <p>対応としましては、まずは電気柵の設置や木の伐採を行いまして、早朝からの勤務がなくなるように、労働環境が改善されるように市としても取り組んでいるところです。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>「高崎山のサル」はサル寄せ場に下りてくるようになったのですね。一時期、下りてこないという状態があったようですが。</p>

<p>安部委員長</p>	<p>高崎山自然動物園とうみたまごがお互いの強みを生かして、来園した方々が、サルと海洋生物を同時に学び、豊かな自然の中で1日楽しめるような場所であってほしいと思います。</p> <p>また、関崎海星館は海洋及び天文に関する学習の場はもとより、眼下に豊後水道を臨み、アサギマダラも飛来するなどの魅力がある施設です。</p> <p>しかし、以前からお願いしておりますが、関崎海星館までの道路は目的地にたどり着けるのか不安になるような状況で、高齢者にとって自分で運転して行くのは非常に厳しい現状です。予算が掛かることではありますが、県と市が協力して事業化や改善を行っていく時代となっていますので、道路につきましてもそのようなことが実現し改善されることを願います。</p> <p>ありがとうございます。では石井部会長、次の施設に関する部会意見の報告をお願いします。</p>
<p>石井部会長</p>	<p>では、資料の9ページから、大分市宇曾山荘から意見を述べさせていただきます。(以下、順に温水プール、市営陸上競技場について指定管理者評価部会の意見を報告)</p>
<p>安部委員長</p>	<p>それでは、ただ今説明のありました施設の評価結果に対して、御意見等はございませんか。</p>
<p>江口委員</p>	<p>市営温水プールですが、利用料金はこれで良いと思いますが、他の自治体の状況も確認してほしいです。</p> <p>また、駄原の総合運動公園にできましたトレーニング施設「ワークアウト」を、より一層PRしてほしいです。</p>
<p>スポーツ振興課</p>	<p>市営温水プールの利用料金に関しましては、市内に南大分にも温水プールがありますし、他都市の状況、過去からの料金設定の経緯に基づきまして、必要に応じて料金改定を行っています。</p> <p>今回、消費税の増税にあたりまして、料金の改定も行っていますので、そういったところも含めて他都市の事例も含めながら、適切な料金を研究してまいりたいと考えております。</p> <p>また、本日の資料にはありませんが、駄原のワークアウトにつきましては、しっかりとPRをしていきたいと思っています。</p>

矢野委員	<p>評価部会の御意見に賛成なのですが、野津原地区にあります施設に関しましては、記載のとおり、昨今ダムの開発も完了し、道の駅、天空広場も完成しました。先般、私も訪れましたが、非常に良い施設ができたなと思っております。</p> <p>それぞれが連携することによって、非常に良い効果を生むのではないかと思いますので、是非とも連携を図っていただきたい。</p>
安部委員長	<p>ありがとうございます。では石井部会長、次の施設に関する部会意見の報告をお願いします。</p>
石井部会長	<p>では資料の12ページから、丹生温泉についてです。 (以下、順に多世代交流プラザ、生き生きプラザ潮騒、市営住宅について指定管理者評価部会の意見を報告)</p>
安部委員長	<p>それでは、ただ今説明のありました施設の評価結果に対して、御意見等はございませんか。</p>
江口委員	<p>丹生温泉は障がい者の就労の場となっているようですが、他の施設においては障がい者の雇用はされているのでしょうか。障がい者雇用を推進していただきたいと思います。</p>
福祉保健部長	<p>大分市としては障がい者の雇用の促進は推進しておりまして、市役所内でも、市役所外でも積極的に障がい者を雇用するようにしております。</p>
丹羽委員	<p>丹生温泉は（就労継続支援）A型の施設です。</p> <p>運営する大分市福祉会さんがプロポーザル方式により指定管理の事業者となっているという点は、画期的なことだと思っています。</p> <p>設置目的に合った企画の中で、障がい者の就労継続支援A型の施設を運営されていることは大分市の福祉の向上の点からも重要なことだと考えます。</p> <p>また、大分市は市の臨時職員にも障がい者の雇用を進めていらっしゃいます。</p> <p>私も社会福祉法人を運営している立場として、よく取り組んでいただいていると感じています。</p>

福祉保健課	<p>今回、丹生温泉は「大分市福祉会」というところがプロポーザルにて（選定され）運営していただいているところであります。</p> <p>プロポーザルをする中で、設置目的である「市民の健康の保持及び増進を図るとともに地域の活性化に寄与する」に基づきまして、事業者から、障がい者を雇用するという提案がありました。</p> <p>総合的に判断した結果、この事業者に決定したのですが、障がい者雇用を前面に出して、丹生温泉のプロポーザルを実施したということではありません。</p> <p>他の施設は私どもの方で把握しておりませんので、丹生温泉について回答させていただきました。</p>
池邊委員	<p>全体に関する意見ですが、評価部会の御意見は多面的な視点からのご指摘でその通りだと拝聴しておりました。</p> <p>その中で、施設の経年劣化・老朽化が進み、工事計画、リニューアルに着手しなければいけない建物が多くあると思います。その施設の元々のコンセプトにこだわらず、時代のニーズですとか、市民の求めるものに合わせて、工事やリニューアルを行う際も、他の使い方ができるのではないかという可能性を見据えて取り組んでいただきたい。</p> <p>例えば、最近取り組まれている例もあるかと思いますが、コワーキングスペースとして使用する等が考えられます。</p> <p>また、海星館に行くまでの道路状況が良くないという指摘がありますが、広報戦略で考えていけば、海星館に行くという途中経過をストーリーとして仕立てるなど攻め方は色々あるかと思います。</p>
谷川委員	<p>私はNPOとして施設を利用する機会が多いので利用者の立場から意見を言わせていただきます。</p> <p>街中に施設が多くあるのは便利だと思っていまして、対象者に合わせて施設を選んでいきます。例えば高齢者の方でしたら歩いて行ける施設であったり、交流する場ということでしたら利便性を考慮して駅の周辺であったりといった施設の使い分けをしています。</p> <p>利用の際に、どこの施設も予約の仕方がバラバラなので不便に感じています。共通のシステムで同じような予約の仕方にしていただけると、とても便利だと思います。</p> <p>また、利用するのは市民なので、施設管理、運営は勿論ですが、重点を置くところは、市民サービスの向上、利用者に対しての人的サービスの向上という視点を強く持っていただきたい。</p>

<p>植松委員</p>	<p>さらに、施設を利用した市民の声（アンケート結果等）を市民に返すという取組も必要です。民間の事業者であればインフォメーションの掲示板に頂いた御意見やそれに対する回答が載ると思います。このような取組を行えば、指定管理者も気が引き締まり、市民サービスの向上に取り組んでいただけるかと思います。</p> <p>それぞれの施設において、利用者のターゲット層を絞って広報の戦略を立てて欲しい。ホームページでの広報をされていますが、取組がターゲットに届いているのかという点では少し疑問があります。広報のツールを様々な世代のターゲットに合わせて活用する工夫をしていただければ、より効果が得られると思います。</p> <p>各施設の評価（外部効果）が妥当なのかどうかを客観的に判断するため、比較対象（ベンチマーク）となる他の施設と指標の比較ができると望ましい。</p> <p>また、先ほど、丹生温泉でもありましたが、障がい者を雇用することによる政策的なコストが指定管理料にも反映されているのであれば、その点は分離するか、含まれている政策コストを明らかにすることで、外形的な費用の多寡だけでない視点での評価が行えると思います。</p>
<p>井上委員</p>	<p>多世代交流プラザのネーミングの件です。</p> <p>本日対象となっている施設の内、私が知っているのが一つか二つ程度です。例えばコンパルホールでしたら、聞けばどのような施設かすぐわかるのですが、他の施設は名前を聞いても、聞いたことがあるような、無いようなという印象でしかありません。名前として、聞いてすぐにどのような施設が想像できるようなものが良いと思います。また、地域の小学校などに新しいネーミングを募集すると、応募した人はどのような施設かを考えると思いますし、もし自分の名前が採用されれば、周囲の人もその施設に行ってみようと思うので、検討してみてはどうでしょうか。</p> <p>また、利用者の満足度が 50%前後の施設がありますが、一般企業に勤めている立場からすると低いと感じますので、利用者の満足度を向上させる余地がまだあると思います。</p>

<p>安部委員長</p>	<p>ありがとうございます。それでは時間もまいりましたので、「指定管理者制度導入施設評価」についての審議は、この辺で終了させていただきます。</p> <p>引き続き、地方創生関連事業の事務事業評価に移りたいと思います。事務局は説明をお願いします。</p>
<p>企画課</p>	<p>では、地方創生関連事業の評価結果及び、事前に委員の皆様から頂いた御意見について、御説明させていただきます。資料4をご覧ください。</p> <p>地方創生関連事業の評価結果と事前に委員の皆様からいただいた御意見について御説明いたします。資料4「事務事業評価（地方創生関連）」という表紙を1枚めくり、左上に「事務事業評価（地方創生関連）総括表」と書いた資料をご覧ください。</p> <p>本市では、地方創生に関連する事業を多岐にわたり実施しておりますが、本日は、その内、国の地方創生関連の交付金を受けて実施している、こちらの5事業について御説明いたします。説明は5事業を一括して行います。</p> <p>では、はじめに、1番の「アートレジオン推進事業」についてですが、本事業は、人口減少・少子高齢化が進む周辺地域にアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動を通して文化振興を図るとともに、地域住民との交流を促進することにより、地域の活性化につなげることを目的とした事業です。</p> <p>本事業のKPIにつきましては、「①のアーティスト移住者数」と「③のワークショップ等のイベント開催数」については、目標値を達成しました。</p> <p>「②の移住体験ツアーの開催数」については、秋と冬の2回を予定しておりましたが、旧大志生木小のアトリエの空き室が1室のみとなったことから、秋開催予定のツアーは中止し、個別に見学希望者を受け入れたため、未達成となっております。なお、冬開催分については、旧野津原中部小を新たにアトリエとして整備したことから、別府市とも連携する中で実施しました。こうした取組の結果、現在、旧大志生木小で6名、旧野津原中部小で4名、計10名のアーティストが活動されています。</p> <p>実績を踏まえた事業の方向性としましては、今後もアトリエの需要が見込めますことから、引き続き、積極的な情報発信を行い、アーテ</p>

	<p>イストを呼び込むとともに、創作活動の発表の機会を提供し活躍の場を創出するなど、アーティストの定住に向けた支援にも力を入れてまいります。</p> <p>また、ワークショップ等のイベントに継続的に取り組むほか、大分都市広域圏で連携した合同展覧会を開催することで事業の相乗効果を図ります。</p> <p>さらに、アーティストと地域との橋渡し役として、地域おこし協力隊を活用するなど本事業の一層の推進を図ります。</p> <p>委員の皆様からの御意見としましては、「学校が持つ地域における拠点性の維持と、異質なものを持ち込み、地域に刺激を与えるという点で優れた取組。地域の変化を注意深く観察しつつ、息の長い取組としてほしい。」といった御意見や、「他の施策との相乗効果が図られるアートイベントの検討、また、アーティスト移住者数の増加を図る上でも生活支援を含んだ施策展開が効果的」といった御意見をいただいております。</p> <p>続いて、2番の「自動運転の社会実装を見据えた地域公共交通の再編とローカルイノベーション」についてですが、本事業は、地域公共交通の運転手不足や、利用者数の減少が進む中、自動運転の早期のサービスインに向けて、実証運行を展開するとともに、多くの企業が集積する本市の特性を活かし、自動運転技術などの成長が見込まれる産業において、ローカルイノベーションが促進されるよう、産・学・官が地域ぐるみで連携できる環境整備を進め、産業の創出につなげることを目的とした事業です。</p> <p>KPIにつきましては、初年度である令和元年度は、目標値を設定しておりませんが、本事業の初動として、「大分市における自動運転のあり方検討会議」を4回開催し、自動運転車両の活用方法の調査等を実施するとともに、2年度目以降に実験運行する自動運転車両を整備・購入したほか、主に地場企業を対象とした「次世代モビリティセミナー」を開催し、機運の醸成を図ったところでございます。</p> <p>実績を踏まえた事業の方向性として、今年度は、引き続き、「大分市自動運転のあり方検討会議」を開催するほか、河川敷道路において、遠隔技術を活用した自動運転車両の運行を行い、乗車機会を創出するとともに、社会受容性や自動運転車両の活用方法を調査・検討するなど、社会実装に向けた取組を進めてまいります。</p>
--	---

また、本年7月には「大分市次世代モビリティ研究会」を設立し、次世代モビリティに関連する分野の調査・研究を行うことで、会員企業の技術力向上や人材育成、将来的な産業振興につなげることを目的に取り組むこととしています。具体的には、県外企業の車両製造現場での実地研修や大分大学と連携した利活用方法の検討などを予定しております。

なお、コロナ禍により、企業や大学等が県外への移動を自粛していることから、令和3年度以降も含め、今後の事業計画について見直しを行う必要があると考えております。

委員の皆様からは、「モビリティ問題の解決だけでなく、成長産業の経済効果を取り込もうとする意欲的な事業。実証実験を継続し、知見を積み上げ、本市が次世代モビリティの先進地として認知されることを期待する。」といった御意見や、「グリーンスローモビリティは、その特性から活用場面を選ぶことから、他の輸送方法も含めた検討継続を期待する。一方で、近隣市町村にとっても有力な交通・観光インフラになり得る可能性があるため、共同実証実験等を進めることが費用対効果を高める」といった御意見をいただいております。

続いて、3番の「クリエイティブ産業育成事業」についてですが、本事業は中小企業の持続的な成長に向けた付加価値の高い商品・サービスの開発支援や、クリエイターと企業の出会いの場の提供などを通じたクリエイティブ産業の育成と、産業活性化プラザを中心に、創業を希望している人や中小企業者の新たな事業活動等を支援することにより地域産業の活性化を図ることなどを目的とした事業です。

KPIにつきましては、2つの指標ともに目標値を上回っております。

実績を踏まえた事業の方向性としましては、本市の創業や中小企業支援の拠点である「産業活性化プラザ」については、今年1月から利用者の利便性向上のため、休館日を変更したところ、相談件数が増加していることから、今後も現行の運営体制を維持するとともに、セミナーの開催や経営相談などの際には、新型コロナの感染拡大を踏まえた対応に努めてまいります。

また、クリエイティブ産業の育成については、今年度も地方の中小企業やクリエイターにとって、リアリティのある内容を学ぶ機会となる講師をお招きし、来年度は、これまで以上に実践レベルに落とし込み、経営とデザイン、ブランディングについて学ぶ機会を創出します。

	<p>さらに、パッケージコンテストについては、応募者と課題提供企業が情報共有できる機会の充実を図るとともに、これまでの受賞クリエイターや、課題提供企業・商品の魅力を市内外に発信してまいります。</p> <p>委員の皆様からは「より適切な KPI の設定が望ましいのではないか。」といった御意見や、「パッケージデザインコンテストは、クリエイター育成と中小企業支援の両方の施策への寄与が認められるものであり、こうした事業を増やすことが行政効率化にも繋がる。」といった御意見をいただいております。</p> <p>続いて、4 番の「くらしの和づくり・仕事づくり応援事業」についてですが、本事業は、人口減少や高齢化により耕作放棄地が増加するなか、担い手自身の高齢化も進み、農業生産活動の継続が危ぶまれる事態が予測されていることから、地域農業のサポートを行う「地域農業経営サポート協議会」に対して補助を行い、地域を支える仕組みづくりをモデル的に支援する事業です。</p> <p>KPI である「ネットワーク化の希望を叶えた集落数」につきましては、目標の 75 集落に対し、72 集落という結果となり、未達成となっております。</p> <p>実績を踏まえた事業の方向性としましては、令和 2 年度は、ドローンを用いた農薬散布の農作業受託を進めるなど、収益の増加に向けた支援を行うとともに、総務省の集落支援員制度を活用し、事務局員を増員するなど、本協議会の運営体制の強化を図ります。</p> <p>今後も、収益の確保に向けた取組を進めるとともに、本協議会の事業に賛同する生産者の増加に努めることにより、ネットワーク化の希望を叶える集落数の増加を目指し、担い手不在の集落解消や、耕作放棄地の発生抑制につなげてまいりたいと考えております。</p> <p>委員の皆様からは「ドローン活用による散布作業などは民間事業者による創意工夫が期待できる分野であることから再委託により IT 産業の振興にも寄与できる。」といった御意見をいただいております。</p> <p>最後に、5 番の「野津原地域拠点整備事業」についてですが、本事業は、野津原地域に交流拠点施設、いわゆる道の駅を整備し、地元農産物やジビエを活用した魅力あるメニューの提供や個性的な加工品の販売を行うことで、野津原地域における農産物の生産や、野生鳥獣の捕獲・一次処理・加工等の事業に取り組み、過疎化の著しい当地域において雇用の場の創出と所得向上を図ることを目的とした事業で</p>
--	---

<p>安部委員長</p>	<p>す。</p> <p>K P Iのうち、①の道の駅利用者数については、昨年11月のオープン以来、多くの方に御利用いただき、目標を上回りました。一方、②のジビエ関連商品数につきましては、1品のみ（天然シシ肉の黒カレー）にとどまっているほか、③の関連事業従事者数については目標値にわずかに届いておりません。</p> <p>実績を踏まえた事業の方向性としましては、道の駅の利用者数を更に増やすため、年間を通して販売できる地元農産物の掘りおこしや新たな加工品の開発などを行うとともに、ジビエの安定確保を支援し、ジビエの加工品やメニューを増やすことで、地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。</p> <p>今後も、「ななせダム」や「のつはる湖」の美しい景観をはじめ、今年7月に完成した「のつはる天空広場」など新たな魅力も活用しながら、この地域一帯が市民の憩いの場、にぎわいの場となるよう取り組んでまいります。</p> <p>委員の皆様からは、「市街地から、ななせダム等を経由し、久住方面へと至る軸を意識し、各施設の相乗効果の発揮を狙ってはどうか。また、ジビエ加工品の開発に継続的に取り組んでほしい」といった御意見や「飲食・物販施設部分については民間事業者による創意工夫を期待し、競争入札・コンペ等に基づく委託についての検討を。」といった御意見をいただいております。</p> <p>また、表の下にありますように、「その他のご意見」として、移住施策の積極的な展開についてや、企業版ふるさと納税制度の取組強化、女性が働きやすく、暮らしやすい街づくりなど総合的な施策展開の重要性などについての御意見も頂戴しております。</p> <p>なお、次の頁にあります「事務事業評価（地方創生関連）に関する質問」には、委員の皆様から事前にいただいた御質問に対する回答をまとめておりますので、これらも踏まえながら、このあと御意見をいただければ幸いです。</p> <p>地方創生関連についての説明は以上でございます。</p> <p>ただいまの説明に対して、御意見等ございませんか。</p>
--------------	---

江口委員	<p>移住者・定住者を増やすという点、農業従事者の高齢化の進行という課題、地方創生の全般的な問題と思っています。</p> <p>人口減少・少子高齢化と言われていますが、大分市の人口も 2016 年度をピークに減少し、死亡者数が出生数を上回る、転出者が転入者を上回る状況では、問題があると思います。</p> <p>地方創生の観点から人口減少・少子高齢化への対応をどのように取り組んでいくのかについてお聞かせ下さい。</p>
企画部長	<p>御指摘いただきましたとおり、人口減少・少子高齢化の時代において地方創生関連の事業は非常に重要であると認識しています。</p> <p>その中で、できるだけ色々な方法を取りながら移住者を増やす、そのひとつとして、本日議論いただきます「アートレジオン推進事業」を展開しています。この事業以外にも移住・定住促進の取組を進めていますが、アートレジオン推進事業は、過疎化が進んでいる地域におきまして、アートの力を活用して地域を活性化するという目的のもとに実施しております。</p> <p>様々な政策を組み合わせながら、移住者の増加に取り組んでまいりたいと考えています。</p>
丹羽委員	<p>資料の総括表を見ても、番号 1 では「人口減少や少子高齢化」、番号 4 でも「高齢化・人口減少」、番号 5 では「過疎化の著しい」という言葉が並んでいますが、当初から設定されていますこれらの事業の達成度を示す KPI が適正ではないと感じています。</p> <p>必要性、有効性、効率性、公平性等の観点から検証する場合に例えば、アートレジオン推進事業では「ワークショップの開催数」を指標としていますが、どのくらいの参加人数と効果があったのか。地域住民との交流にとどまらず、少子化が進む地域に隣接する人口増の坂ノ市や大在から人を呼び込める企画になっているか。</p> <p>野津原地域拠点整備事業では「ジビエ関連商品数」の目標 2 個に対して実績が 1 個達成率 50%となっていますが、大学の食物科等の学生とコラボレーションして関連商品を開発することで、実績値も達成したでしょう。拠点整備事業であるので「道の駅」の利用者数を指標①にあげるのであれば、指標②も過疎化著しい野津原地域の人口増と交流人口増につながる KPI 指標の設定が望ましいと考えます。</p> <p>人口減少、少子高齢化の課題は、例えば佐賀県は人口が減少し、高齢化率も 58%を超えています。小学校在校生生徒数も減少著しく、</p>

	<p>坂ノ市、大在への転居も少なくないとのこと。喫緊の課題と認識しています。</p> <p>私は今、玖珠町にて地方創生の取組にも関わっていますが、玖珠町では IT 関連の企業が、人材を育成する施設を休校舎に開設し、年間 40 名が移住し、学んで社員となっていく取組が始まっています</p> <p>文化的なことや農業だけでは、なかなか移住者を増やすことは難しいのが現状です。玖珠町の場合も御出身の方が、IT 関連の会社の代表をされていたことから、今回の取組につながっています。</p> <p>人口減少に歯止めがかかり、経済効果を生むような、モデルになるような対策が必要だと思います。</p> <p>働く環境があってこそ暮らしが成り立つと思いますので、人口減少社会への対策として、もう少し地方創生の視点から力を入れてほしいと考えます。</p> <p>(野津原地域拠点整備事業について)</p> <p>玖珠町の道の駅は年間利用者数が 30～40 万人ということで、にぎわいが創出されていますが、野津原道の駅の商品構成やメニューなどを工夫すれば、さらに利用者も伸びるのではないかと思います。地元の方にとっても、商店が少なくなり、道の駅が地域住民の生活を支えるような拠点になっている現状もあります。そのことも踏まえて、運営していただくことが望ましいと考えます。</p>
長崎委員	<p>(自動運転の社会実装を見据えた地域公共交通の再編とローカルイノベーションについて)</p> <p>資料に記載の意見の中で「グリーンスローモビリティは活用場面を選ぶ」という御意見がありましたが、野津原から市内中心部にかけての実証実験を行うと聞きましたが、この実験は本事業の枠内でしょうか。</p>
都市計画部長	<p>11 月 20 日から 29 日の間で宗麟大橋から府内大橋の間で自動運転を実施するスケジュールです。</p>
長崎委員	<p>使用する車両は、ゴルフ場のカートのような形のものでしょうか。</p>
都市計画部長	<p>車両は「eCOM-10」と言いまして、黄色の車体で、昨年度と一昨年度に大分駅の周辺で実証実験をさせていただいた車両でございます。</p>

長崎委員	その実証実験の結果として、どのような感触を得ましたか。
都市計画部長	アンケートの結果、非常に好評を得たと感じています。公共交通の不便地域における活用ですとか、運転手不足への対応といった点で将来性を感じるという意見が多かったと聞いています。
長崎委員	前回の実験は大分市の中心市街地での実施ということで、街中で乗ったり降りたりという、市内を回遊するという利用の仕方ということでしょうか。
都市計画部長	昨年度と一昨年度の実験では、大分駅の南口から南蛮 BVNGO 交流館の往復をさせていただきました。 今回は国土交通省に協力をいただく中で、大分川の河川敷を使わせていただいでの実験を実施します。
長崎委員	意見にもありますように、グリーンスローモビリティはなかなか使う場面が限られるものだと思いますが、実証実験を重ねて、特性に応じた活用をしていただければと思います。
植松委員	「大分キャンバス」が、様々な制約の中で窮屈な運用を強いられているという状況もありますが、大分市美術館と大分駅間の運行をグリーンスローモビリティに置き換えてみるなど、施策を相互に活用しながら、運用していただくと良いかと思います。
石井委員	様々な場面で「ミッション、ビジョン、バリュー」が大事だと思っています。 「ミッション」は目的、「ビジョン」で事務管理をしていき、「バリュー」は目的を達成するために重要な資源と考えています。 地方創生をその視点で考えてみますと、まずはどのような地域にしたいのかというミッションに対して、どのように進捗させていくのか、3年後のビジョンを設定して、そしてその実現に向けて必要な地域の価値は何かということを考えていった時に、大きく行政が担う部分と地域の事業者が主体になるべきところがあると考えています。 例えば番号2の自動運転に係る事業は行政主体という面があると思いますが、地域主体、地域の方が動かないと本当の意味での地方創

	<p>生は達成されない。</p> <p>地域の方が動く際の呼び水として、行政はどのような仕掛けをしていくのかという点が重要です。</p> <p>どのように出口のところに向かって、民間を動かしていくような仕掛けづくりをしていくのかというところが、行政の手腕ではないかと思えます。その辺りの仕組みについてどのように考えていらっしゃるのかを教えてください。地方創生はあくまでも地域住民が動かなければいけない、アートレジオンにしても行政が一生懸命に動いても、地域住民がその後、継続して自分たちで実施しているのかどうかという点での評価をどのような仕組みで行っているのでしょうか。</p>
企画課	<p>今後、地域主体となった事業運営をどのように促していくのかという点ですが、本市では総合計画策定の際に地方創生を目的として掲げた「大分市総合戦略」も策定しております。この戦略が本市が掲げていますミッションであり、ビジョンであります。その中に「しごととにぎわいをつくる」「人を大切にし、次代を担う若者を育てる」「いつまでも住み続けたいまちをつくる」「安全・安心な暮らしを守り、未来をつくる」という4つの大きな基本目標を掲げ、地方創生に関連する施策をまとめています。施策の成果指標では、地域の方を動かしたり、企業と一緒に協議会を設置するなどして活動した成果を掲げているものもあります。</p> <p>今回審議いただいております、5事業についても、アートレジオン推進事業でも地元の方にご参画いただく中での活動をしておりますし、ローカルイノベーションにつきましても、協議会を立ち上げ、民間の方を動かしながら実施しています。行政もこれから支援を続けていくなかで、しっかりと支援をしていく体制を続けています。行政として呼び水的な役割を果たす部分と、最終的に民間に移った場合にも支援するという体制で事業を行っています。</p>
石井委員	<p>そうしますと、資料に記載の事業概要が、例えば市の方からこのようなことをするという仕組みになっていますが、ではそれをした結果としてどのような状態になっているのが理想なのか、例えばアートレジオンの事業概要の内容を実施した際はどのような状態になっているのが理想なのかという設定を設けておいた方が良いと思うのですが。</p>

企画課	<p>地方創生は最終的には「自立性」が強調されています。ここで言う自立性とは、いつまでも公的な事業として行うものではないという趣旨です。</p> <p>通常の事業ですと（事業開始から）3年後を目途に、地元で事業を開催していただくという形です。アートレジオン推進事業ですと、アーティストの方が廃校にアトリエを設置して、地域に居住していただいてその地域の芸術活動に参加していただくことで、市全体での芸術活動にも寄与していただくという動きを事業開始から概ね3年以降で進めていただくことを目指しています。</p> <p>詳しい資料を十分に提示できていない点は申し訳ありませんが、基本的には交付金の申請書類の中で「自立性」の項目が審査の中で謳われておりまして、おおむね3年後、長い事業ですと5年後から、（民間主導で実施していただく計画を）記載しています。</p>
石井委員	<p>今おっしゃった点はアートレジオンに参加していただいている方は理解されているということでしょうか。</p> <p>そのような状態になるということ、住民の方が理解して実施しているということでしょうか。</p>
企画課	<p>基本的に、色々な事業に御参画いただく際、協議会を立ち上げる際、アートレジオンで言いますと入居して下さる方、住民の方に対しても、いずれは自立して事業を継続していただくことになる旨、説明させていただいています。当然、永遠に行政がお膳立てをして、国の交付金をいただきながら行う事業ではありません。野津原地区にしましては過疎地域でございますので、過疎地域自立促進特別支援法に基づく、様々な支援制度もございます。それらの制度と併せて今後も事業に取り組んでいくという説明を地域住民には行っています。</p>
安部委員長	<p>それでは、時間もまいりましたので「地方創生関連事業の事務事業評価」はこの辺で終了させていただきます。</p> <p>以上で、すべての議事を終了しましたが、最後に私から一言述べさせていただきます。</p> <p>まずは、委員の皆さんから活発な御意見が出される中で、滞りなく無事に審議を終えることができましたことに感謝申し上げます。</p> <p>本日頂いた御意見につきましては、取りまとめた案を委員の皆さんにご確認していただいた上で、11月16日の月曜日に市長に当委員</p>

<p>企画部次長</p>	<p>会の意見として提出したいと思います。後日事務局を通じて御連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また、事務局におかれましては、この行政評価の結果を担当部局において様々な角度から十分に検討していただき、予算編成等に積極的に反映していただくことを希望いたします。よろしく願いします。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p> <p>安部委員長、ありがとうございました</p> <p>それでは最後に佐藤市長より御挨拶を申し上げます。</p>
<p>佐藤市長</p>	<p>—市長挨拶—</p> <p>委員の皆様、長時間に渡り御審議いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>また、石井部会長を始め指定管理者評価部会の皆さまに置かれましては大変精密な御審議、御報告をいただき改めて感謝申し上げます。</p> <p>指定管理者制度導入施設評価と地方創生関連事業という異なる議題でしたが、指定管理の方はやはり市民の皆さまが施設を利用するに当たっての利便性を向上させ、有効に使っていただくために様々な御意見、要請に応じていくことが大変重要だと思いますし、応えた状況が見える化をするということも重要だと思います。</p> <p>指定管理者と市の所管課が一緒になった努力が、市民の皆さまに評価されるのではないかと思いますので、本日いただきました御意見を踏まえ、努力を続けていきたいと思っております。例えば亀塚古墳でありますとか関崎海星館ですと、私も広報の番組に出演するなどしてPRをしているのですが、やはりまだ市民の皆さま全般に周知されていないところがあると思っておりますので、施設の広報に関しても取り組んでいきたいと思っております。市の施設はコロナ禍で一時期閉鎖をしておりましたが、今は全て開館し、市民の皆さまに活用していただける状況になっておりますので、施設を活用しながらの市民サービスの向上に努めてまいります。</p> <p>地方創生に関しましては、ついに人口減少社会に大分市もなりまして、これからの大きな課題でございます。まず自然増減の方は、やはり出生率が上昇していかないとはいけませんので、まずは子育て支援を充実していくことが大事であると考えます。例えば認可保育所の定員数を増加させるという施策があります。</p>

やっと大分市の待機児童数は0人を達成しましたが、隠れ待機児童数を含めると500人位となりますので、更に認可保育所の定員を増やしてまいりたいと思いますが、その施策だけで出生率が上がるとは考えておりません。

将来にわたって大分で子どもを産んで育てることができる、明るい社会が出来つつあるということを若い世代に思ってもらえれば、出生率が上がっていくのではないかと思います。併せて人口減少の面では高齢者の方にはできるだけ健康寿命で長生きをしていただくことも必要であり、人口の増加につなげたいと考えています。

現在、市内で年間に新しく生まれる子どもが4,000人を割りこんでいますが、このままでは100年後には市の人口が40万人になってしまうということになります。やはり、若い方々が子どもを産んで育てようと思える社会にしていくことが大事だと思います。

社会増減の方では、産業がしっかりしているということが大事であり、本日御審議いただきました事業の中では、クリエイティブ産業育成事業のように新しい産業を創っていくことも大事だと思いますし、大分市の魅力を高めていくということも大事だと思います。

コロナ禍におきまして、都市部で人口が過密な状況に対する見直しの傾向も出てきていますので、その意味では新しい産業を創出して、地方の中でも大分市が大変魅力のある地域だという発信もできるのではないかと考えています。新たな産業の創出というところでは、高齢者の方の移動手段を確保する対策としてグリーンスローモビリティ、自動運転の取組をしっかりと行ってまいります。

また、地域の魅力を高めるという意味では、地域の老人会やPTAの方にも参画していただいた会議から提言をいただいた「地域まちづくりビジョン」を策定しています。野津原地区のビジョンでは「ななせダム」や道の駅について地域活性化の拠点として掲げており、地域の皆さんで応援していただき、実行していただけるような社会を目指しています。

最近、菅総理が「自助・公助・共助」という方向性を掲げていますが、本市ではその前から、市民自身が自分たちで取り組むべきところは何だろうか、地域でやるべきところは何だろうか、行政に要請することは何だろうか、という視点をもって、自主的にまちづくりに取り組んでいただいています。

また、野津原地域拠点整備事業は資料では事業終了と記載していますが、道の駅という建物のインフラ整備が完了したという意味でござ

<p>企画部次長</p>	<p>います。整備完了後のにぎわいを創るという面では全てを地元の方で担っていただくというわけではなく、例えば学校の吹奏楽部の子供たちに夏の間、近隣の施設も活用しながら合宿をおこなっていただき、練習を午前中に行い、午後にはコンサートを開催するといった仕掛けも考えています。事業に記載の事業は終了となりますが、今後はにぎわいを創出する事業を個別に推進し、継続していく仕掛けづくりは市の方でも行いますが、地域の方にも参画していただきたいと思えます。のつはる天空広場においては国土交通省の職員の中で音楽愛好家の方がいまして、10月31日から11月1日にかけてジャズフェスティバルを開催する予定です。このように様々な形で地域の魅力を高めるということは「地方創生」の意義ですが、地域の方が自分たちの力で変わっていくというのが大切だと思いますので、これまでの実績を踏まえまして取組を推進してまいります。</p> <p>本日は貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。</p> <p>これもちまして、令和2年度第2回大分市行政評価・行政改革推進委員会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。</p> <p>(15:30終了)</p>
--------------	--